

## 体育複合施設建設に関する基本的な考え方

1	はじめに	-----	1
2	経緯	-----	1
3	屋内スポーツ施設の現状	-----	2
4	体育複合施設の位置づけと果たす役割	-----	3
5	施設規模・設備の概要	-----	3
6	配置計画のイメージ	-----	4
7	建設及び運営上の課題	-----	5
8	建設工程（予定）	-----	6

平成24年 6月

太宰府市

## 1 はじめに

市では、市民のスポーツの利便と体力向上に資するための「総合体育館」に付加価値をつけ、今日的課題にも対応する「体育複合施設」として整備を目指しています。

そして、県立看護学校跡地及び隣接する保健環境研究所の一部を候補地とする建設計画の策定に着手するにあたり、その前提となる「基本的な考え方」について市民の皆さんにご理解いただくために本書を作成しました。

体育複合施設は子どもから高齢者まで、市民の皆さんに率先して活用していただく市民の大切な財産となります。本書により、体育複合施設に関する市の基本的な考え方についてご理解いただきますようお願いいたします。

## 2 経緯

### (1) 総合体育館建設の取り組み

総合体育館の建設は、市民、議会及び市関係者の長年にわたる大きな課題であり、また念願でした。総合体育館建設の取り組みの主な経過を示すと表-1のとおりです。

具体的な取り組みは、平成6年の総合運動公園プロジェクトの発足から始まります。

平成15年には議会や市の関係者が用地取得に奔走し、その成果として平成17年度には用地の一部を購入することができました。

また、平成20年度には市民へのアンケートを実施し、その結果から総合体育館の必要性を再確認しています。

平成21年度には、署名活動など市民の皆さんのあと押しも受け、平成24年度には建設候補地を決定することができました。

そして、このような経過を反映したなかで、総合体育館の建設は「総合計画」をはじめとする市の計画で、その必要性を述べています。

表-1 主な経過

年 度	内 容
平成6年度	総合運動公園プロジェクト発足
平成8年度	「太宰府市総合運動公園整備事業基金」設置
平成11年度	「太宰府市総合体育館早期建設に関する請願」議会採択（紹介議員19名）
平成15年度	福岡県知事へ県立看護学校跡地の払い下げ要望（市長・議長）
平成15年度	福岡県議会議長へ県立看護学校跡地の払い下げ要望（市長・議長）
平成17年度	体育施設等の敷地に供するため、県立看護学校跡地購入
平成20年度	「太宰府市運動・スポーツに関する意識調査」実施
平成20年度	「太宰府市運動・スポーツ振興従事者アンケート」実施
平成21年度	「太宰府市スポーツ振興審議会 答申」にて総合体育館の基本コンセプト等の提言を受ける
平成21年度	「太宰府市総合体育館早期建設の陳情」2,320名の署名が添えられる
平成23年度	「太宰府市総合体育館建設調査研究委員会 答申」にて施設内容等の提言を受ける。
平成24年度	県立看護学校跡地及び隣接する保健環境研究所の一部を建設候補地に決定

### (2) 「総合計画」での位置づけ

平成23年度を初年度とする「第5次太宰府市総合計画前期基本計画」において、生涯学習の推進施策の一つとして「総合体育館の建設」が位置づけられています。

### (3) 「スポーツ振興基本計画」での位置づけ

「スポーツ振興基本計画」は、平成21年度に「いきいきとしたスポーツライフの創造」を目指して策定したもので、本市の持つ課題やニーズに応え、長期的な見通しを持って施策に取り組んでいくためのガイドラインです。

そのなかの基本施策として「総合体育館の建設」が位置づけられています。

### 3 屋内スポーツ施設の現状

太宰府市における屋内スポーツ施設の現状を知るため、春日市、大野城市及び筑紫野市と本市の屋内施設利用者数を比較したところ表—2の結果になりました。

表—2 屋内施設利用者数の比較

市	屋内スポーツ施設名	延利用者数 ①(人)	H23年度末 自治体人口 ②(人)	1人あたり年間利用回 数 ①/②(回)
春日市	市民スポーツセンター	113,378	110,283	1.58
	西スポーツセンター	52,596		
	北スポーツセンター	8,188		
	小計	174,162		
大野城市	総合体育館	99,707	96,578	2.16
	北コミュニティセンター	24,982		
	東コミュニティセンター	28,782		
	中央コミュニティセンター	27,338		
	南コミュニティセンター	27,482		
	小計	208,291		
筑紫野市	農業者トレーニングセンター	75,666	101,072	0.83
	山家スポーツ公園	8,664		
	小計	84,330		
太宰府市	市体育センター	44,987	70,456	0.89
	南体育館	18,025		
	小計	63,012		
3市	合計	529,795	378,389	1.40

市民一人当たりの年間利用回数は4市平均1.40回に対し、太宰府市0.89回であり、平均を大きく下回る結果となりました。もちろん、利用者数の中には当該市の市民以外の人も含められているため純粋に市民サービスの差とはなりません、施設の充実度の比較にはなりません。

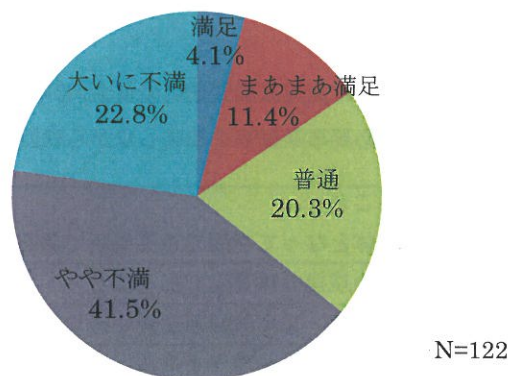
太宰府市の体育センターが築35年、南体育館も築32年を経過しており、施設の更新や統廃合を検討していくうえでも新たな施設の建設が望まれます。

**※屋内体育施設の充実度**

太宰府市の施設の充実度は近隣市の平均を大きく下回っている。

図—1は「太宰府市運動・スポーツ振興従事者アンケート（平成20年度実施）」において調査した「本市の運動・スポーツ公共施設満足度」の結果です。

図—1 本市の運動・スポーツ公共施設満足度



※やや不満、大いに不満を合わせると64.3%

このように、本市の屋内スポーツ施設は、充実度及び満足度ともに十分ということできません。

#### 4 体育複合施設の位置づけと果たす役割

市では、主に市民のスポーツの利便と体力向上に資するための「総合体育館」に付加価値を付け、今日的課題である少子・高齢社会に対応した子どもから高齢者まで気軽にスポーツに親しめる施設の整備を目指しています。

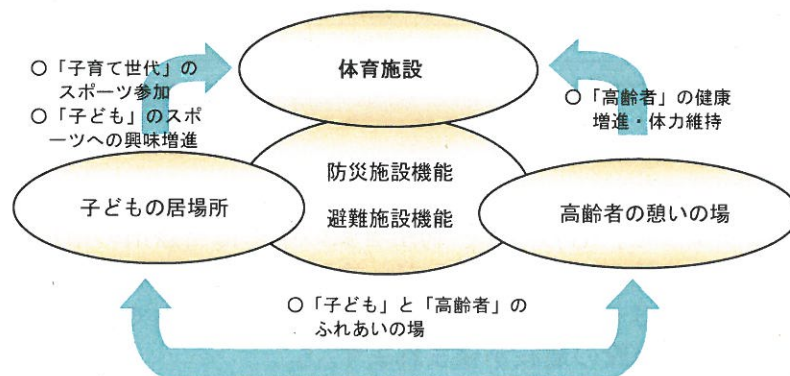
また、複合機能として「防災施設機能」と「避難施設機能」を付加することも重要です。

昨年発生した東日本大震災は私たちに想像を絶する自然の脅威を見せつけました。そして、福島第一原子力発電所の水素爆発に伴う放射能の広域汚染は防災行政の根本的転換を迫っており、福岡県の原子力災害に係る広域的な避難計画の対応として、本市でも500人規模の一時避難受入施設が必要とされています。

これらのことに速やかに対応するため、体育複合施設の早期建設が望まれます。

なお、複合用途の具体的な機能については、いきいき情報センター等の既存施設の見直しも含め一体的に検討していきます。

図—2 体育複合施設の位置づけと果たす役割（イメージ）



#### 5 施設規模・設備の概要

体育施設としての規模は、「太宰府市総合体育館建設調査研究委員会答申」の内容を基本としますが、詳細は敷地条件、必要事業費等を加味しながら検討していきます。

なお、設備面においては、防災・避難施設の機能向上とエネルギーの安定受給のため、太陽光発電やコージェネレーションシステム等を、また省エネルギーシステムとして、地中熱や太陽熱の利用も検討していきます。

答申の概要（抜粋）を表—3に示します。

表—3 太宰府市総合体育館建設調査研究委員会 答申の概要（抜粋）

〈詳細は、敷地条件、必要事業費等を加味しながら検討していきます。〉

○立地条件	市民に身近な場所であること。 体育施設や教育施設が一体となって利用できる場所であること。
○規模	市民大会等を開催できる中規模の体育館であること
○機能	体育館機能だけでなく、教育・文化的機能を併せ持つ複合的な施設であること。
○施設内容	・メインアリーナ バasketボールコート2面 バレーボールコート3面 バトミントンコート8面 に対応 観客席450席程度
	・柔道場・剣道場 それぞれ2面对応
	・駐車場 普通車300台以上 大型バス10台
	・卓球スペース 卓球台8台常設

## 6 配置計画のイメージ

この配置図は、「太宰府市総合体育館建設調査研究委員会 答申」を基に、敷地条件を加味して作成しています。

なお、下図はあくまでイメージです。基本計画及び基本設計の段階で具体化していきます。



## 7 建設及び運営上の課題

### (1) 「佐野東地区まちづくり」との整合

建設候補地は、JR 太宰府駅設置を含む佐野東地区のまちづくりを検討されている区域です。このため、既存の市民プールを含めたうえで、候補地周辺を当該まちづくりのなかの「スポーツふれあいゾーン」と位置付けることにより当該まちづくりとの整合を図ります。

### (2) 用地の確保

体育複合施設の敷地は、県立看護学校跡地及び隣接する保健環境研究所の一部エリアを候補地としており、建設には一部用地取得が必要となります。

当該地には、地域気象観測所（アメダス）や大気常時監視所などが設置されており、これらの移設補償も必要となります。また、開発行為に伴う調査も必要となるため、早期に用地協議に目途をつけ、基本計画、基本設計及び実施設計へ手順を進める必要があります。

なお、候補地に隣接して別途用地取得の可能性が生じた場合は、「スポーツふれあいゾーン」のさらなる拡大のため、積極的な用地取得に努めます。

### (3) 交通渋滞対策

建設候補地は、前項「配置計画のイメージ」に示すとおり、幅員 9 m の「関屋・向佐野線」と幅員 10 m の「水城駅・口無線」のともに一級市町村道の角地にあたります。

また、西鉄都府楼前駅から 520 m（歩行経路）の距離に位置するとともにコミュニティーバス「まほろば号」の路線に隣接しており、公共交通機関の利便性は高いものがあります。

長期的な交通対策は佐野東地区のまちづくりで総合的な対策を実施するものとし、短・中期的には公共交通の利便性を最大限生かした施設運用を心がけていくものとします。

表一 4 に公共交通の利便性が高い福岡市の体育館における駐車場の設置状況を示します。

表一 4 福岡市の体育館における駐車場の設置状況（一部施設）

施設名	住 所	駐車可能台数
福岡市民体育館	博多区東公園	94台
東体育館	東区香住ヶ丘1丁目	48台
中央体育館	中央区赤坂2丁目	36台
西体育館	西区拾六町1丁目	82台

上表の駐車可能台数から推察するに、必ずしもマイカーでの来館だけを前提としていないものと考えられ、運営上どのような配慮をされているのか、十分に研究し参考にしていきます。

なお、前項「配置計画のイメージ」においては、普通車の駐車場を300台程度確保できる見込みです。また、緊急時には仮設駐車場として国道3号高架橋下の活用も検討していきます。

#### (4) 推定される維持管理費

維持管理費は、施設内容、規模及び運営状態により大きく異なりますが、類似施設は年間（指定管理料）86,000千円～46,000千円で運営されています。

### 8 建設工程（予定）

第5次太宰府市総合計画前期基本計画においては、表-5に示すとおり成果指標「日頃からスポーツに取り組んでいる市民の割合」を指標に設定し、平成21年度の33.9%から平成27年度には40.0%となるように目標値を設定しています。

このことから、平成26年度以前のできるだけ早い時期での供用が妥当であると考えられます。

表-5 施策 生涯学習の推進 成果指標  
(第5次太宰府市総合計画前期基本計画P52抜粋より抜粋)

No.	指標	基準値（平成21年度）	目標値（平成27年度）	備考
指標2	日頃からスポーツに取り組んでいる市民の割合	33.9%	40.0%	市民意識調査から

平成26年度の供用を見据えた建設工程（予定）は以下のとおりです。

- 
- 平成24年度 用地協議（敷地確定）、基本計画、基本設計、実施設計、
  - 平成25年度 用地取得、敷地造成工事等
  - 平成26年度 建築工事、供用開始
-